

令和7年8月御代田町教育委員会定例会 会議録

招 集 年 月 日	令和7年8月 26 日(火)	
招 集 場 所	エコールみよた 大会議室	
開 閉 会 時 の 日 時	開 会	令和7年8月 26 日(火)午後1時 54 分
	閉 会	令和7年8月 26 日(火)午後3時 54 分

出欠席者の職氏名

職 名	氏 名	
教 育 長	砥石 順一	
教 育 長 職 務 代 理	山口 智之	
教 育 委 員	市川 和明	
教 育 委 員	荻原 道子	
教 育 委 員	柳井 陽奈	

説明のため出席した者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
教 育 次 長	阿部 晃彦	公民館長兼図書館長	清水 成信
図 書 館 係 長	内堀 博江	博物館係長兼博物館長	芹沢 一路
指 導 主 事	武重 朋子	学 校 給 食 係 長	中山 敦人
学 校 教 育 係 長	佐々木 大		
生 涯 学 習 係 長	藤巻 祐子		
社 会 体 育 係 長	清水 優		

職務のため出席した委員会職員職氏名

書 記	山田 知佳	
-----	-------	--

議 事 日 程	別 紙	会 議 事 件	別 紙
教 育 長 等 の 報 告	別 紙	会 議 の 経 過	別 紙

傍聴人

0人

令和 7 年 8 月定例教育委員会 会議録

砥石教育長	教育長挨拶。 まず初めに、3校からそれぞれ1学期のまとめと2学期の取り組みについてご報告お願いいたします。
小中学校長	鈴木北小学校長、岡部南小学校長、高橋中学校長より資料に沿って、1学期のまとめと2学期の取り組みについて説明。
砥石教育長	ありがとうございます。ここまでの内容について、ご感想、ご質問等ございますか。
荻原委員	北小さんですが、資料も見やすく、説明を聞いていてとても充実した内容だと思いました。ありがとうございます。まず、一番聞きたいのは 40 分授業についてで、1 回されたってということで、保護者の方の感想に「下校が早くなった分の時間がゲームの時間になってしまうのは違うので、放課後の時間の使い方について検討する必要があると感じた」というところがそうかと思いました。今度、実施する時には、児童館や保護者の方にもっとお話をして、理解をしてもらって計画しているということでしょうか。
鈴木北小学校長	時間としては 15 分～20 分早まるだけなのですが、元々が狭い立地の児童館に多くの子ども達が行くということになると、やはり職員配置が必要ですし、そこで子ども達が充実した時間を過ごすためには工夫をしていかないといけないと思っています。それから学校運営協議会では、児童館だけではなくて、例えばエコールみやた内の図書館を使えるとか、午後の子供達の過ごし方が少しでも良いものになるように、他にも協力をしてもらおうとか方法はないのか、とご意見を頂いています。まだ、具体的なものは決まっていますが、家に早く帰宅する子が親不在で 15 分ゲームの時間となるのは残念なので、そうならないようにしたいです。
荻原委員	そうですね。それはそれで仕方がないと思わない訳でもないですが、嫌だという保護者の意見もとても分かります。前回実施して今回 9 月に 1 週間だけ実施して、11 月に 1 ヶ月実施と記載がありますが、その後の先生方の協力具合や、その後をどうするかというアンケートは既に行っていますか。
鈴木北小学校長	先生方へのアンケートはまだ取っていません。1 週間実施した所でしっかりとアンケートを取って形にし、1 ヶ月実施を進めてみようと考えています。そうすることで 1 日実施とは違うものが見えてくるはずですし、それを総合していくことで、40 分授業を取り入れていくことが、子ども達の充実した学校作りに繋がるという所を検討しながら実行したいです。また、

	アンケート内容は決まっていますが、せっかく計画・実施してみても、アンケートが良くなかったから止めるということではなく、他の方法を検討して実施するというように、繋がるものをできればいいと考えてはいます。
荻原委員	アンケートの実施計画もあるということですね。あと、今回の 40 分授業に対して、先生たちはどのような反応ですか。
鈴木北小学校長	先生たちは 1 回実施したことで、40 分授業の方が子ども達は集中できるということを実感しています。ただ、元々の 45 分授業でも延びがちな内容や、じっくり授業を進めたいという時は本当に工夫が必要で、子ども達に力がかからないぞという危機感も持っています。例えば、次の時間と繋げて 80 分授業にしてみるとか、効果的な授業をするためにどのような学びや工夫が必要かという部分で不安に思う先生はいるかもしれませんが、40 分授業に反対する先生はいません。
荻原委員	分かりました。ありがとうございました。続いて南小さんですが、こちらも資料の写真、南小 PBS の実施ということで、子ども達が児童会を中心に取り組んだ内容がすごく上手で、良い雰囲気伝わってきてとても嬉しかったです。また、先生方の自主的研修・校内サークルということで、これは先生方が実施しているものですね。
岡部南小学校長	はい。研究主任の先生が勤務時間外に実施しています。希望する先生が参加する形で実施していて、私も出席させてもらいました。
荻原委員	そうなのですね。こういうことも良い雰囲気、とても嬉しかったです。あと、私が南小さんに聞きたいのは、コミュニティールームについてです。とても大盛況なのは、前々から存じていますが、岡部校長先生は赴任されてまだ半年弱なので、以前と比べるとというのは難しいかも知れないですが、先ほどおっしゃっていたように楽しみにしている子どもが沢山いるというのはとても大きいと思います。コミュニティールームがなかった頃と、継続されてきての変化、岡部校長先生が今分からなければ、どなたか勤務が長い先生に聞いていただいたりして、コミュニティールームがあることによっての子ども達の変化を、ぜひ報告・記載していただけると嬉しいなと思います。
岡部南小学校長	今、手元に具体的な資料はないのですが、子ども達の変化について例えば、授業に前向きに取り組めるようになったとかがあります。
荻原委員	ありがとうございます。また、そうした半面で悪い部分もあるようでしたら、そうした点についても是非教えていただきたいです。よろしくお願いします。続いて、中学校さんお願いします。こちらも資料をありがとうございます。中学校でも良い取り組みを沢山していただいているなと思いま

	した。また、「いちいの会（不登校保護者の会）」に出席させていただいて、とても楽しかったですし、回数を増やしていただけるのかなという感じで、嬉しく思っております。 一点お聞きしたいのが、この資料から読み取れなかった部分で、中学校の先生たち同士はどういう感じなのか、小学校のように先生同士での取り組みはあるのか気になります。
高橋中学校長	中学校はやはり部活動があるので、放課後の時間を上手に使うことが難しいというのが正直な所です。各学年で、先生方で交流している部分はあります。あと、先生同士の交流ですと、夏休みに夏祭りという交流会を設けて、先生のお子さんも連れてきたりして、焼きそばやかき氷等の軽食を作って食べながら交流する機会を作っています。また、もう一つは朝に運動をしてみようということで、週末などの部活動を始める前に来られる先生が集まってバレーボールをしたり、バトミントンをしたりという運動しながらの交流を行っています。
荻原委員	とても素晴らしくていいですね。先生同士でそういう交流を行っているとお聞きすると、やはり安心というか、変かもしれないですけど先生同士が仲良くなれるきっかけがあるっていうことをとても嬉しいです。ありがとうございました。以上です。
市川委員	では私からお願いします。1 学期は小学校2校の運動会しか出席できず、中学校を含めて他の子ども達の活動を見ることができず、本当に申し訳なかったなと思います。2 学期の活動はいろいろ見たいと思いますので、今日はこの資料のみで思ったことをお話ししたいと思います。北小ですが、重点1の人権尊重は先生方の取り組みも、児童の取り組みの様子もとてもよく分かり、関心いたしました。特にあの児童会長からの語りかけはとてもいいですね。子どもがどのように語り掛けて、どのような進め方でやっていたのか、とても興味があって見てみたかったですし、良いことだなと思いました。重点2の 40 分授業ですが、今話題になりましたけれども、まだ 1 日しか実施していないので簡単に評価はできないと思いますが、私が一点お聞きしたいのは、やはり5分間というのは教師にとってとても大事にしている時間の一部であり、その 5 分間の有無でまとめの時間とか、最初の時間、片付けの時間等が大きく変わってしまうのではないかと思います。安易に、ただ短縮すればいいと済ませてしまうわけではないと思いますが、事前に学校として 5 分間を作り出すために、統一した工夫は用意されているのか、それとも各先生方におまかせなのか。先生たちの工夫次第なのか、その辺りについて、何かありましたら教えていただきたいです。

鈴木北小学校長	今のところ、導入時に ICT などを活用して、すぐ課題に取り組めるようにして時間短縮するとか、どうしてもたくさん詰め込み過ぎるので、やることを少し集中して沢山は詰め込まずに絞って学習し、その中できちんと定着できるようにしたいと考えています。授業では学習する時間をと振り返る時間を取りますが、定着するために繰り返し学習する内容を、午後に新たにできる 20 分間に充てるとか、別の時間を使うというような工夫もしたいと考えます。今まで漢字の授業だけで 1 時間とかあったかもしれないですが、例えば漢字を新しく学ぶことを 20 分間だけにするとか、メリハリのある学び方が良いのではないかと。先進的に進んでいる学校における授業の進め方を職員研修で学ぶことも、2 学期に計画しています。
市川委員	そうすると、学期末や年度末に、新たな成果等がお聞きできそうですね。日課表も大きく工夫されて変わっていくと思うので、ぜひ良い成果をお聞きできれば良いなと思います。続いて、南小にお願いします。全国学力学習状況調査は、県と全国との比較をみると、不思議なことに上回ると下回るという結果が北小と全く逆ですね。たまたまで大きな問題ではありませんが、これは何か学年の特徴というか、傾向もあるのかなと感じました。南小でも 6 年生で教科担任制が実施されているとのことで、メリットも感じられているという報告があります。これも既に時代の流れですので、どんどん色んなことを改革されていかれると良いかなと思います。3 ページ目の長期欠席者の数ですが、これは北小も同じなのですが、南小の児童数 5 名というのは、どういうカウントの仕方で 5 名となっているのでしょうか。長期欠席(30 日以上欠席)と限定されていますが、欠席理由はいろいろありますが、どういったカウントになるのか教えていただけますか。
岡部南小学校長	1 学期の段階で、既に 30 日を超えた欠席となっている児童数になります。欠席や病気やその他、様々な理由があります。
市川委員	だとすると、1 学期で欠席日数が 30 日を超えている子は、どのように評価されるのでしょうか。
岡部南小学校長	1 学期の状況になるので、今の段階で判断は何とも言い難いです。
市川委員	県平均の数値をふまえると、在籍率で約 0.9%ということは、年間を通してこの数値が出たら凄いことになるので、北小もですが、学校や先生が頑張っているなと感じました。私が関わっている教育委員会の学校と比較すると、とても少ない数値です。良い成果が出ているのだなと思っております。続いて、中学校の学習面についてですが、テストの結果を数値だけを見るとあまり思わしくないというところ。特に 3 学年は NRT も学

	校学力学習状況調査も今一步ということのようですが、こういう比較の仕方だけで子ども達の実態は語れないですが、1点私が気になったのは、下の方にあります。学習したことを普段の生活に結びつけるという思考は、テスト点にあらわれる学力を支えているという何年か前の方向性に対して、それが授業改善の成果として出ていなかったということですかね。特に数学ですね。先ほどの説明ですと、教職員が入れ替わったとおっしゃっていましたが、本当にそれだけの問題なのか、教職員が入れ替わった結果なのだとしたら、これはまた大変な問題だと思います。教職員の入れ替わりでこんなに変わってしまうと、外部から不審に思われてしまうので、伝統として根付いてやっているのであれば、教職員が入れ替わろうが同じようにできた方が望ましいと思います。今回これが数学だけで出た特徴なのか、先生方の問題なのか、よくよく分析をされた方が良いでしょうと思います。広く見たら、大きな問題ではないかもしれませんが、より良くしていくためには、検討されるといいと思いました。本当に子ども達の実態と見比べて、その実態あつてのことなので、見比べてみてから検討されると良いかなと思いました。教育はすぐには成果が出ないもの、1～2 年間等が出るわけではないので、じっくりやっていただければと思います。それから、3 年生については、進路に向けて適切に進路指導が行われていきますよう、頑張っていただければと思います。以上です。
山口委職務代理	市川委員と同様に、1 学期は学校行事に訪問することが出来ず、申し訳なかったと思っております。それにつきましても、先生方にはいつも申し上げますけれども、きめ細やかな指導をいただきまして本当にありがとうございます。また引き続き、2 学期もお願いしたいというふうに思います。個々の学校にということではありませんけれども、お聞きしたいと思います。まず、夏休み明けということで、児童生徒の自死に対する心のケアをお願いいたします。こちらは県からも注意喚起ということで通知が出ております。我々もそうですが、一番注意しなきゃいけないところで、先生方ももちろん承知されていると思いますが、より一層の注意をお願いできればと思います。それと、資料における北小さんと南小さんの児童アンケートで、【問: 将来の夢や目標はもっていますか】の数値が、北小は「学校: 87.2%、県: 81.7%、全国: 73.4%」、南小は「学校: 87.5%、県: 82.7%、全国: 83.1%」と、2校で県と全国の数値が異なっています。これは同じデータを使用していますか。どちらの学校が正しいということではないですが、見ただけでは分からない部分があり、信憑性に関係することになりますので、確認をお願いします。また、TOCO-

	TON(トコトン)の内容についてですが、北小さんは具体的な時間割を出していただき、説明において 40 分授業をクローズアップされていると思います。この 40 分授業以外のところで、TOCO-TON(トコトン)内容について、今どの程度検討されているのか、先ほど少しお話はありましたけれども、教えていただければと思います。
鈴木北小学校長	資料のまとめに記載していますが、本校ではインクルーシブな学校作りを目指しています。そのためには『混ざる』ってということで、色んな人たちと関わり合うことが大切なことと考えています。子ども達は同学年だとしても比べてしまいがちですし、そういった価値観から言いやすいところがあります。違う学年・年齢、違いを持った人、特に障害を持った人たちと普段から接する機会が少ないです。そういったところから、『混ざる』ということを決めて、交流を図っていています。特に今年度は、やまゆり保育園と検討して、園と学校で交流をしています。
山口委職務代理	要するに 40 分授業から捻出した時間の中で、そういったものを実施して、インクルーシブな教育をしていこうという考え方ですか。
鈴木北小学校長	そうした関わりを持つことで、状況を判断して子ども達が体感できるように、本校として推進していきたいと考えています。
山口委職務代理	わかりました。ありがとうございます。各校ではどんな感じですか。
岡部南小学校長	まだまだ、先生方に周知していかないといけないところではありますが、40 分授業を実施していった場合は、北小と同じような日課になると思います。それが、20 分なのか 30 分になるのかまだ決まっていますが、その時間をうまく使って、探究的な学びをする時間、本当に自分の好きなことをやって、学校に来るのが楽しみという子どもを増やせたら良いなと考えています。あとは、教科の時間として、普段の授業の中でうまく学習できずに終わってしまうような子どもがいるのですが、この生み出した時間を使って学力を伸ばす時間にしたり、個別にサポートが必要な子どもが自分のペースで学べる時間にしたりと考えています。
高橋中学校長	中学校ですが、TOCO-TON(トコトン)に対して、抵抗意識をもつ教職員が少なからずいます。しかし、皆で進めて行かなければいけない。そのために、話し合う時間を設けていますが、なかなか具体的に進んではいません。小学校が 40 分授業を実施していく中で、中学校はそのまま 50 分授業ということになったら、今の小学生が中学生になった時に集中力が続くのかという心配があります。授業を 10 分短縮することはすごく大きいことなので、そうした部分を考えて 45 分授業はどうだろうかと思案をしています。それでも、中学校は教科担任制ですし移動教室もあります。また、先ほどの北小の検討にあるような、2時間続けてみると

	いう取り組みも安易にできない所があります。そのため、年間は無理でも月に何回か 45 分授業を実施できないか、更に検討して提案してみようと考えております。まだまだ進んでいない状況ではありますが、2学期に話し合う時間を設けて進めていきたいとは考えております。
山口委職務代理	懸念を示されている先生も当然いらっしゃると思いますが、中学校では具体的にどのような懸念を持たれているのですか。
高橋中学校長	新しいことに対して抵抗を感じる方がいらっしゃる状況です。
山口委職務代理	そうですね。どの学校でもそうだと思います。DX 推進の時もそうでしたが、新しいものに手を付けないというよりは、今までの既存のものにすがりたいといいますか、そんなところもありますよね。でも、変わっていかないといけないというのは大切な事だと思います。積極的に自分からやっていると、なかなか駄目かなと思います。その辺はまた、校長先生のご指導かと思います。大変だと思いますけれども、よろしくお願いします。最後になりますが、3年ごとに行う経年変化の分析というのが新聞に載っておりました。学力低下に危機感を持つとういうようなことで、全国的な新聞、例えば朝日新聞・東京新聞・日本経済新聞等ですが、それぞれがかなり深刻に捉えておまして、前回から見るとかなり落ちているということでした。学力調査は全国的に毎年実施しているのが普通ですが、今回の調査では始めた時よりも落ちているという事で、その原因について、様々な原因があるとされています。例えば、英語については、コロナ禍の影響を中学 3 年生は受けている。あと、ICT を使いすぎているという。その使い方の良否というのがありますが、鈴木先生が前におっしゃっていたように、そればかりに頼っていると、学力的にどうなのかというようなこと。また、保護者の方が、あまり学力にこだわらなくなってきた、というようなアンケートも載っています。いろんな要素があって、今回だけでそれを決めることはできないと思うのですが、今後 TOCOTON(トコトン)をやっていくにしても、それを使って学力を伸ばしていこうというように、県教育委員会の武田教育長さんは考えていらっしゃると思うのです。けれども、前のところの原因、また対策ですね。それぞれの学校ではどうするのかということをお聞きたいです。
鈴木北小学校長	今日もお話しさせていただいて、既に取り組んでいるところになります。低学年でタブレットを使ってコロナ禍をしのいできた結果、子ども達はタブレットと向き合ってやること、対面ではなくタブレットと向き合っていることが多くなっている。あと画面上でやるようなことが多いことも、本校の低学年で気になっています。やったような気にはなるけれども、実際に自分の身に付いていないというようなことを感じています。そのた

	め、とにかく体を通して学ぶということを今は行っています。あと、人と話して折り合いをつけるというような部分が、非常に大事な力だと思っています。一方的に言って終わりだったり、何か言われたことをただやるということではなくて、違う意見があったり、それを話し合いで解決していく力が足りなくなっていると思って、そういった力をつけてもらいたいと、今は取り組んでいます。今の子ども達は、小さい時から視覚優位、画面を見て動くようなことで育ってきている所があって、コミュニケーション力、とくに聞き取る力が足りていないと感じます。また、視覚の支援も大事ですが、想像する力、イマジネーションの部分も足りていないとも感じます。そうすると、テストで字しか書かれていない中、どうやってイメージを膨らませながら、自分で結びつけて回答していくかというところにも難しさがあるのかなと考えます。そのために、昔の読み取りや書き取り等の学びも、子ども達にいい具合に取り入れていくことが大切ですし、過剰だったと感じる部分については減らすとか対応していかないといけない。こうしたことをしっかり進めていかないと、子ども達の文章を読み取って、自分の考えをまとめる力が落ちていいるとは実感しています。
岡部南小学校長	今年度、特段に自分が示している訳ではないですが、昨年に南小では【目指す子どもの姿】ということで3つ掲げています。その1つに「自ら考え行動する」というのがありますが、やはり主体的に自分で考えて、自分から進んで学習するっていうことを取り入れたいと私は思っています。例えば宿題の出し方について、今の家庭学習は宿題を先生が出して、それをやってきて答え合わせをする流れです。そこを TOCO-TON (トコトン)も絡め、理想としてはこちらから課題を示さない。だけれども、これは身に付けたいと思う力を決めて、それについて評価をすることを示して、それに向けて子ども自身で学習していくようなものにしていきたいと今考えています。これから半年かかるのか、1 年かかるのか、先生方と一緒に取り組みたい。ただ、今の話のように宿題を設定しないということに抵抗がある先生も多いと思うので、自ら考えて学習する流れに子どもたちが進めるようにどのようにしたら良いかをしっかり話し合っていきたいと思います。基本的に、子ども自らが努力して学ばないと、記憶に残らないし、身につくものも身につかないと考えていますので、そうしたところの投げかけを先生方に行っていただき、頑張っていきたいと思っています。
高橋中学校長	今授業の様子を見ていて、中学では ICT 機器を使っの授業が少ないと感じています。子どもたちがこれから社会に出てく中で、タイピング力、プレゼンテーション力等は身に付けていかないといけないと思って

	います。これについて場面を考えながら、使う時と使わない時があったり、また学力に本当に結びつくような使い方をどのようにしたら良いか、この部分は皆でしっかり考えていかないといけないと思っています。やはり、視覚で分かる部分があることにはあるので、担当者と確認しながら進めていきたいと考えています。
山口委職務代理	ありがとうございました。時間がないので、またいろんなところで、教えていただければというふうに思います。引き続き、2学期もよろしくお願いいたします。以上です。
柳井委員	最後になりますが、よろしくお願いします。北小さんからですが、やはりポジティブな感じで、資料 1 ページ目から素晴らしいなと思って拝見させていただきました。3 ページ目の重点 3 の中にある「子供たちの SOS に気づくために」の所ですが、この SOS は、その子が持つ特有の個性に気づくためにということですか。
鈴木北小学校長	この SOS は様々なことが含まれます。例えば、教室を飛び出して行ってしまう子が居たとしたら、きっと教室に居ることが嫌だという SOS。そうしたら、教室をその子の視点で見直してみる。例えば、教室で静かで発言をしない子どもや、学校を休みがちの子どもが居たとしたら、その理由は何だろうと。突き詰めると、勉強が分からず嫌になってしまったとか、お友達との関係で行きたくなくなってしまったとか、家族の仲が悪くて自分がいない間に居なくなってしまったらどうしよう等、様々な理由で子ども達が出している SOS があります。こ子どもから SOS と言ってこない状況においても、発達障害だけに留まるものではなくて、広く見て個々の SOS を見つけていく。多様性の理解というか、とにかくサインを見逃さずに広い目で見て対応していけば、救える部分があると考えています。また、ゲートキーパー研修は実際に SOS に気づくところに結びつく、先生たちが1番気づけるものだと考えております。
柳井委員	ありがとうございます。資料5ページ目 上部にある「先生がよいところを認めてくれている」と回答した児童は、県や全国の値を比べて 10 ポイント以上と多いが、自分によいところがあるかについては、県や全国の値に近づいたが、まだ低い割合である。人と比べない、ありのままの自分でよいと思うことができる学校の風土づくりをしていく」とありますが、どのようにしていくお考えですか。
鈴木北小学校長	どうしても子ども達は、人と比べて持っている・持っていないという判断をしがちです。そういうことで比べることは、もったいないよということを、様々な場面で話していきたい。校長講話であったり、本の読み聞かせであったり、いろんな価値観を広げる機会や場所や取り組み等です

	ね。また、同一学年の集団を崩す。いつも同じ学年の中で活動していると、どうしても人と比較してしまう。けれど、異学年と交流して取り組みを行う、例えば掃除で、同学年で行うとどうしてもサボりがちだったのに、下の学年と一緒に掃除を実施すると、一生懸命に下の学年の子の面倒を見ながら掃除を頑張るという、子どもが変化する姿が見られます。こうして、新しい価値観を広げていけるように頑張りたいと考えます。
柳井委員	ありがとうございました。北小はこれから 40 分授業に取り組むということで、一番大きいポイントですが、給食と清掃の間の時間が 5 分ということですが、わちゃわちゃして子ども達の負担になってしまわないでしょうか。
鈴木北小学校長	給食は今も休み時間とあわせて約 60 分となっていて、40 分授業の時間割でも 60 分となっています。そして、40 分授業の時間割の方が、掃除に移行する間に 5 分プラスしているので、今よりも余裕ができていると考えています。ただし、給食から掃除の切り替えは本当に忙しく大変で、新しい時間割でも先生方の休憩という部分では厳しいものがあるので、様子をみて工夫をしながら進めて行きたいと思います。
柳井委員	ありがとうございました。北小と南小の2校に関係してくるのですが、学力の話で、「国語力」「算数の数字を理解する力」が大切だと思いますし、力をつけて欲しいところです。先ほど鈴木校長先生、書く力を養うとか、画像に頼らないという話がありましたが、校長先生方はどのようにしようとお考えですか。
鈴木北小学校長	おっしゃる通りで、本当に子ども達にとって大事なことだと感じています。例えば、喧嘩ひとつにしても、子ども自身は色々なモヤモヤした思いや考えがあるにも関わらず、嫌なことをされたらすぐ「死ね」と発言します。この一言で自分の中にあるこうしたモヤモヤした気持ちを込めているのですが、本当はそこには具体的に伝える【言葉】があると思います。こうしたところで、子ども達の言葉を豊かにしたい。そのために必要なものは何かと考えるとやはり【想像する力】。これってどういうことなのだろうかと、柔軟に想像していく力を養わせたい。今、実施している読み聞かせは、子ども達が大好きなので、そういった時間は引き続き大事にしていきたいです。そして、これだけ視覚優先な世の中で、子ども 1 人 1 人が想像しているものが正しいかどうかを判断していくことも難しい部分がありますが、見えないものを自分でどうなのだろうかと考えるための、ゆっくり想像する時間を作っていきたいです。そのための効果的な方法というのは、まだ具体的にはありませんが、子ども達には自分の体を通して感じる事が大事だと考えています。

岡部南小学校長	南小の結果を見ると、「話すこと聞くこと」というのが大きく下回り、「書くこと」は大きく上回っていて、合わせると若干下回るという状況です。このアンバランスの原因が何かは、まだ 6 年生の担任の先生方と話ができていないので、今までやってきたことを聞きながら、改善したいと思っています。先日の 2 学期始業式の際に、夏休みにしたことを写真を見せて話したらすごく盛り上がったのに、その後に3つの大切という話を文字で出したとたん、別の事をし出してしまう子が居たり、やはり視覚優位の時代の流れというか、ここまで落差があることを実感したので、そうしたところでも考えて進めたいと思います。
柳井委員	ありがとうございます。南小さんにお聞きしたいのですが、2 ページ目の「おはようございますを当たり前に」という取り組みが、とても気持ちがいい取り組みだと思います。自分の子どもが南小に在籍していた時に、PTA 役員をする中で挨拶運動に参加していたのですが、当時は挨拶を返してくれる児童が半数以下でした。今こうした活動をしてみて、子ども達に変化はありましたか。
岡部南小学校長	私が一部の子ども達と話しをした際、『教室の中での挨拶が増えた』と子ども自身が実感していることを聞きました。ただ、私自身が登校時に挨拶をした時に挨拶が帰ってくる割合というのは、4月からで大幅な変化が出ていると実感しにくい状況でしたので、子どもひとりひとりの学校へ通うことへの気持ちの表れであったり、友達同士における関係性などで違うところがあるかもしれません。しかし、これは1学期やったからこれで終わりではなく、ずっと続けていきたいと思っています。
柳井委員	ありがとうございます。通りすがりの大人にもおはようございますとか、帰りには声掛けができるようになってくれば、活気づいて良いと思いますので頑張ってください。中学校さんですが、資料の「重点1・②深学タイムの実施」、これとてもいい取り組みだと思いました。先ほどもおっしゃっていたように、放課後に部活があると勉強する時間が中々取れないですし、疲れきっていて勉強する体力もないことがあります。そうした中で、教科ごとに先生が居て、そこへ気軽に質問しに行ける環境を作っていただけたのは、本当にありがたいことだと思っています。あと、3校ともにやはり「国語」「算数・数学」の力、そういうところが共通して足りていないので、理解を深めていくことが大事だと思います。図書館の利用率は増えてきているものの、そういうところに反映されてないところがあるので、そこが繋がっていけば良いなと思います。以上です。ありがとうございました。
砥石教育長	ありがとうございます。実際に、全国学力学習状況調査の数値は、良

	くなかったという報告も各学校からありましたけれど、それが本当に子ども達の生活に関していろいろ考えられているのか。文科省とすると「こういう学力が学力」、「こういうものを学力」、として考えられた問題をやってみて、その数値の現れ方で状況を把握したいというところだと思います。しかし、今の時代でそこが本当に求められているのかどうか、またそれが良いのかという部分もあります。また、カリキュラムオーバーロードというか、教える内容が多すぎるために、学習内容や定着が中途半端になってしまっていないのか。またICTなのか。色々と言われている割に、今回の新聞紙上や文科省から、算数・数学の力がガクンと落ちている。それも全国的に落ちているという報告があります、先ほど山口先生もおっしゃっていたところです。だとすると、どこを目指せばいいのかとなります。逆に、本当に「学力」ってどういうふうに捉えていけばいいのか、そうしたところもあるので、この辺りを共有しながらそれぞれの学校で、どういところを育てていくかが明確になっていけば良いと思います。今日このような形で各校長から報告がありました。大変ありがとうございます。そして2学期もよろしくお願いいたします。では、これで各学校からの1学期のまとめと2学期の取り組みについての発表を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。
	午後3時 15 分< 学校長退席 > 午後3時 25 分< 委員会再開 >
砥石教育長	教育長挨拶。 続いて、3. 前回の会議録の報告と署名について、事務局からお願いいたします。
佐々木学校教育係長	事務局からですが、会議録の訂正はありませんでした。
委員	(会議録署名)
砥石教育長	続いて、4. 教育長等の報告ということで、次長から先月の教育委員会で行った行事について報告をお願いします。
阿部教育次長	資料に沿って、先月の教育委員会で行った行事について説明。
砥石教育長	教育長からの報告内容を資料に沿って説明。なお、今月は夏休み期間となりますので、学校の様子についての報告は省略させていただきたいと思います。続いて、各係長より事業報告等をお願いします。
各係長	各係の事業報告について、佐々木学校教育係長、藤巻生涯学習係長、芹沢博物館係長兼博物館長、内堀図書館係長、清水社会体育係長、中山学校給食係長より、資料に沿って説明。
砥石教育長	ありがとうございました。報告等がありましたが、何か質問はございますか。

山口職務代理	社会体育係にお聞きしたいです。8月6日に新体育館の選定委員会がありました。御代田町がよく行っているプロポーザル方式ですが、その中で選定委員が9名いらっしゃいました。そのうち6名が理事者と町職員、私と他にスポーツ推進委員1名、それと議会議長という内訳です。その際は、プロポーザル方式で一社しかいなかったわけですが、選定委員が町の職員で占められている中だと、あらかじめ決まっていたのかと取られかねないのではと思いました。これまでも、選定委員の選出は同様の方法で決めてこられたのでしょうか。
清水社会体育係長	選定については、それぞれのプロポーザルに応じて適切な人を選定している状況です。町内のプロポーザルに関しては、わりあい職員・議員といったような構成にすることが比較的多いです。そしてそこに、事業に関係する町民の方々というような選定の前提がなっていたので、今回についても同様にしました。
山口職務代理	今後は具体的な業者を決めていくと思いますが、建設していく場合とか、そういった時も同じような形になるのですか。
清水社会体育係長	設計業者については、先般行われたプロポーザルの希望者で、随意契約という形式をプロポーザルの際に示しております。基本設計・実施設計については、宮本忠長設計事務所に委託すると決まりました。建設する工事業者については、入札になります。この入札についてはプロポーザル方式ではありません。
山口職務代理	分かりました。今後は変わるという事ですね。最初から随意契約に見えてしまう部分がなきにしもあらずでしたので、お聞きしました。以上です。
砥石教育長	他にございますか。ありがとうございました。では、次回9月の定例教育委員会は、26日(火)午前10時からエコールみよた大会議室で行います。また、10月の定例教育委員会は10月21日(火)でよろしいでしょうか。
委員	(意見なし)
砥石教育長	では、10月の定例教育委員会は10月21日(火)予定でお願いします。以上をもちまして8月の定例教育委員会を終了します。ありがとうございました。

(終了 午後3時54分)